

文化財の概要表

凡例	国史跡(国指定史跡)、県史跡(県指定史跡)、県重文(県指定重要文化財)、市史跡(市指定史跡)、市天然(市指定天然記念物)、市無文(市指定重要無形文化財)、市重文(市指定重要文化財)、市無民(市指定重要無形民俗文化財)、市有民(市指定重要有形民俗文化財)
----	--

No	名称	概要
1	産泰神社	下大屋町。祭神は木花佐久夜比売命(このはなさくやひめのみこと)で安産の神です。本殿と敝殿(へいでん)と拝殿と神門及び社地(県重文)、八稜鏡(はちりょうきょう=市重文)、太々神楽(市無文)は指定されています。境内には金毘羅宮や船乗り大黒石像などがあります。祭礼は4月18日です。背後には赤城火山泥流による巨岩があります。
2	大黒塚古墳	下大屋町。6世紀代の前方後円墳で文政年間(1819)に石室の石が取り出されたと伝わっており、明治8年内務省へ提出された「勢多郡村誌」に須恵器や埴輪や銅鏡などが出土していると報告されています。
3	丸岡の石仏	下大屋町。寛政12年(1800)の庚申塔や如意輪観音塔があり、この北辺に江戸時代後期まで天台宗の医楽寺が存在しましたが富田の正法院へ合併し廃寺になりました。
4	泉沢神社	泉沢町。祭神は大日靈命(おおひるめむちのみこと)で、社殿の背後に合祀された石殿などがあります。祭礼は4月1日に近々の日曜日、獅子舞(市無文)が毎戸を廻る神事が行われています。
5	円明寺	泉沢町。天台宗で本尊は阿弥陀如来です。寺の門前には周辺より集められた石仏があります。
6	公民館の阿弥陀如来坐像	泉沢町。公民館の敷地に長享3年(1489)の石像阿弥陀如来坐像があります。泉沢には上増田の久川藤太郎が作った稲荷藤節(いなりとうぶし=市無文)が伝承されています。
7	向原の石殿・石仏	泉沢町。御嶽山石殿(みたけさんせきでん)、摩多利神塔(またりじんとう)、金魔羅薬師(きんまらやくし)、金毘羅石殿、大日如来像など江戸時代中・後期の石造物があります。
8	御神幸道	泉沢町。4月と12月の初辰日に二宮赤城神社と三夜沢赤城神社で行われる神事は、五穀豊穡を祈願するためですが、徒歩による御神幸で行き来した道は現在ここだけに存在する古道です。
9	丸山の石仏	泉沢町。西泉沢の北部など周辺から集められた、五輪塔、馬頭観音、毘沙門天(びしゃもんてん)、薬師如来、地藏菩薩、双体道祖神などの石仏と、牛頭天王、蚕影山、金毘羅などの石殿があります。
10	富田の宝塔	富田町。室町時代初期の特徴を示す安定感のある均整のとれた塔です。宝塔は多宝如来と釈迦如来を奉蔵する塔で市重文に指定されています。
11	上区寮の石仏	富田町。北部にあり住民が講を行う施設で寮と言われており、正法院の境外施設になっています。甲子天、庚申塔、二十二夜塔などの石仏があります。
12	御殿山古墳	富田町。全長約40mの円墳で銅鏡、直刀、金環(きんかん)、轡(くつわ)などが出土しています。
13	穴墓地の石仏	富田町。室の中に安置された白粉(おしろい)薬師は9月7、8日に灯籠祭りが行われます。この墓地には他に庚申塔、二十二夜塔、百番供養塔などがあります。
14	お稲荷山古墳	富田町。昭和10年の「上毛古墳総覧」には直径約50mの円墳と記されていますが未調査のため詳細は不明です。
15	三柱神社	富田町。北部の稲荷神社(保食神=うけもちのかみ)、中央の赤城神社(大己貴命=おおなむちのみこと)、南部の春日神社(天児屋命=あめのこやねのみこと)の三社を明治10年に合祀しました。境内には堅牢地神塔があります。祭礼は4月1日で4年に1度の閏年に祇園の山車がでます。
16	正法院	富田町。天台宗で本尊は阿弥陀如来です。以前はここより南の宮下地区にありましたが、東原の阿弥陀寺を合併し現在に至ります。周辺より集められた五輪塔群などがあります。
17	吹地寮の石仏	富田町。天道念仏(春の彼岸)や大通龍祭(4月16日)が行われ、正法院の境外施設で閻魔堂(えんまどう)ともいわれています。猿田彦大神塔や庚申塔、百番供養塔、二十二夜塔などもあります。
18	宮下の石仏	富田町。周辺から集められた庚申塔、青面金剛塔(しょうめんこんごうとう)、月天子尊塔(がつてんしそんとう)、馬頭観音塔、西国・秩父・坂東順礼供養塔などがあります。
19	少将塚	富田町。東南端の荒砥川右岸の敷の中にあります。天正年間(1573～1591)に京より土着した延澤氏に由来するものと伝承されています。
20	北原沼碑	荒口町。水田稲作を行うための生命線ともいえる重要な北原沼の底が埋まり、それをさらい護岸工事の費用を淀侯(領主稲葉丹後守)より賜り、竣工したのでそれを祝う嘉永5年(1852)の記念碑で、阿部耕雲の師岡永松陽が撰文・揮毫(きごう)しています。
21	赤城神社	荒口町。祭神は大己貴命(おおなむちのみこと)、赤城信仰の神社で祭礼は4月8日です。境内には集められた庚申塔などの石仏や薬師石殿、梵字の薬師真言塔などがあります。阿部耕雲の師岡永松陽撰文の古塚原碑もあります。昭和3年の「御大典記念碑」や記念植樹もあります。
22	水害復興記念碑	荒口町。公民館敷地内にあり、昭和22年のカスリン台風の豪雨は荒砥川上流に未曾有の被害を及ぼしました。荒口の水田も壊屋木材や巨石や砂礫は2mにも堆積し復旧には2年を要しました。
23	耕読堂之碑	荒口町。阿部耕太郎は江戸で岡永松陽や昌平黌(しょうへいこう=幕府学問所)で林大学頭に学び、耕雲と号し帰郷後は荒口に私塾「耕読堂」を開き子弟の指導を行いました。維新後、林大学頭は群馬県師範学校(現群馬大学)で教鞭をとり、耕雲のために「耕読堂之碑」の撰文をしています。
24	中原の石仏	荒口町。出羽三山供養塔、大黒天塔、庚申塔、百番巡礼塔、地藏菩薩像などがあります。
25	観音廃寺	荒口町。真言宗で本尊は聖観音菩薩でしたが無住になり明治42年二之宮の無量寿寺へ合併になりました。境内には六地藏塔、甲子大黒、如意輪観音、廿二夜、月待、梵字青面金剛塔などがあります。特に、輪廻塔は延徳3年(1491)、六地藏塔は慶安4年(1371)造立で歴史を物語る石塔です。なお、境内に「御大典記念」で昭和3年に在郷軍人会と青年団によって造られた鉄棒があります。また、荒口小学校発祥の地でありその記念碑もあります。明治政府により明治5年「学制」が公布され、明治6年荒口の観音寺に荒口小学校が開校され、区域は荒口、荒子、下大屋、西大室、東大室、飯土井、新井、二之宮、今井、富田、泉沢、江木、堤、東上野の14村でした。

54	下宿の念仏塔	東大室町。江戸時代中期の念仏信仰により建立された念仏塔で、中台側面に「いせさきみち」、「二ノ宮道」と刻字され、道しるべの役割も果たしていました。
55	多田の庚申塔	東大室町。江戸時代中期から幕末期の庚申塔が墓地内にあります。
56	多田の観音堂	東大室町。周辺の一部により信仰され祀られています。堂宇(どうう)の付近には江戸時代中後期の石仏や墓石が並んでいます。
57	宿下の石仏	東大室町。国道50号線南の赤堀境に江戸時代後期の梵字青面金剛塔(ぼんじししょうめんこんごうとう)、馬頭観音塔、念仏塔があります。
58	井出上神社	飯土井町。祭神は罔象女命(みずはのめのみこと)で水神です。湧水を神として祀っており、その起源は飯土井沼です。境内に大国主命塔、五神之塔、神明宮、道祖神、輶祖神塔(ふくそじんとう)などがあります。祭礼は3月24日です。境内には樹高約16m、目通り3.6m、樹齢200～300年と見られるシノキ(市天然)があり、ここのシノキは実が細いのでスタジイといわれます。
59	百庚申塔	飯土井町。たくさんのご利益を願って100の庚申文字が刻まれています。
60	石綿常磐頌徳碑	飯土井町。明治に医師、神道家で私塾を開き多くの子弟を指導しました。井出上神社の宮司を務め飯土井の多くは仏式葬儀から神式葬儀に変更しました。弟子により頌徳碑が建立されています。
61	原組の石仏	飯土井町。原組の三本辻に出羽三山供養塔、馬頭観音塔、青面金剛塔、光明真言塔があります。
62	飯土井寮(公民館)と石仏群	飯土井町。西大室観昌寺の境外寮で後に僧侶の隠居寮として使われ、地元の子弟に学問を教えました。文政13年(1830)建立の建物は現在、公民館として使われ、飯土井に貢献した貞専尼、見詔、慧天の石宮を造立し今でも二年に一度供養が行われています。敷地の西裏には大日如来、不動明王、三石殿、地藏、光明真言塔などがあります。
63	道林の輪廻塔	飯土井町。延徳2年(1490)赤石城主、道林によって造立されました。輪廻車(りんねしゃ)を回しながら「南無阿弥陀仏」と唱えると、三界(欲界・色界・無色界)・六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天)で苦難を免れるといわれます。
64	赤石城跡	飯土井町。北郭、本丸、中郭、南郭と並列する構造で文明年間(1469～1487)に赤石佐衛門尉によって築城されました。大永年間に伊勢崎へ移り現在、城の面影を留めるのは北郭のみとなりました。
65	下組の庚申塔	飯土井町。文化9年(1811)造立で、上位に日輪・月輪が刻まれています。
66	赤城神社	新井町。祭神は大己貴神(おおなむちのみこと)で赤城信仰の神社です。祭礼は4月15日と10月17日です。境内に、天神、八坂、妙見石殿、鳥居脇には不動堂があります。
67	二十二夜塔	新井町。公民館にあり子育てや安産のための女人講として造立されました。
68	百石屋敷跡	新井町。木暮弥八郎の屋敷で厩橋城主酒井侯に百石で召し抱えられたが、寛延2年(1749)主君が姫路へ転封になり随行し空き屋敷になり、後に入居した人も木暮姓を名乗り現在に至ります。
69	新井橋庚申塔	新井町。江戸時代前期の庚申塔で、地藏菩薩と五輪塔の部分が寄せられています。
70	女堀跡	12世紀前半頃、上泉付近から刈名荘へ引くため約13m掘られた用水堀ですが未完成に終わりました。富田町、二之宮町、荒子町、飯土井町、東大室町に現存し昭和58年国史跡に指定されています。
71	霊符尊神社	二之宮町。宮東組の女堀南土手にあります。明治の神社合祀令を免れた社で3月3日が祭礼、7月16日は灯籠祭りがあり、災害を防ぎ福寿を増し眼病にもご利益があるといわれます。
72	東街道	筑井町八日市、今井町、二之宮町、飯土井町に現存しています。以前は古代の官道東山道と考えられていました。幅は約9尺(2.7m)で沿線に義経伝説が残っており、東山道(とうさんどう)の脇往還(わきおうかん)的な古道だった可能性が考えられます。
73	宮東の青面金剛	二之宮町宮東。東街道沿いにあります。江戸時代中期の青面金剛塔(しょうめんこんごうとう)で庚申の主尊です。脇に寛政12年(1800)の庚申塔もあります。
74	無量寿寺	二之宮町。新義真言宗豊山派で本尊は阿弥陀如来です。明治42年荒口の観音寺が合併されました。平安時代末の十一面観音と鎌倉時代の地藏菩薩は市の重要文化財に指定されています。なお、江戸時代前期に参道入口の右側に筑波山が築かれました。
75	二宮赤城神社	二之宮町。祭神は大己貴命(おおなむちのみこと)です。納曾利面(なそりめん=県重文)、宝塔(市重文)、絵馬四面(市重文)、梵鐘(市重文)、式三番叟附伝授書(市有民)、神社社地(市史跡)、太々神楽(市無文)、式三番叟(市無文)、御神幸(市無民)、三重塔礎石、大山祇社(文政13年=1830)、歌舞伎舞台、社殿の西側と北側に合祀された石殿があります。鎌倉時代頃にかつて玉蔵院という神社を護る神宮寺があり、現在も仏教関係の遺物が残っています。祭礼は4月15日です。
76	宮本の薬師堂	二之宮町。目にご利益があるといわれ7月下旬に灯籠祭りが行われています。
77	宮本の観音石殿	二之宮町。文明17年(1485)に観音菩薩を祀った石殿です。磯部家の宅地内にありますが道路側の塀際から見られます。
78	宮西の薬師堂	二之宮町。目にご利益があるといわれ7月下旬に灯籠祭りが行われています。
79	慈照院	二之宮町。天台宗で本尊は十一面観音です。二宮赤城神社の本地仏千手観音(市重文)祭りは毎年9月9日に行われます。中島組の薬師は目にご利益があるといわれ、境内に安置され毎年8月下旬に灯籠祭りが行われています。その他境内には山王社や青面金剛塔などの石仏があります。
80	八王子の薬師堂	二之宮町。目にご利益があるといわれ7月17日に八王子組と臼井組の両組によって灯籠祭りが行われます。
81	新土塚城跡	二之宮町。戦国時代で城主新藤備前守は島原で激戦となり、袈裟切りにされ絶命しその怨念から荒砥川